西尾寿博　議員

初めての予算の思いは

町長　地域の活性化支援を

問

町長就任後、初めての予算組みとなる平成22年度予算に、森田カラーは出せたのか。

①将来の大山町の姿と目標が定まった今、町民に分かりやすい施策と町長の思いが見える事業は何か。

②近隣では北栄町が実施している、不要なものを洗い出す事業仕分けを行ったか。

③各種団体に対する補助金は、どのように考えているか。

答　森田町長

①最重要課題として、地域の活性化に向けた具体的なソフト・ハード事業の支援を行う。

また、若者定住対策として、中山地区で賃貸アパートの入居開始を、大山口地区で分譲宅地整備を行う。

そして、耕作放棄地再生利用促進事業や、高齢者を対象とした福祉タクシー事業を計画している。

多品目周年出荷型の農産品を供給する、大山エコ農業推進モデル事業も計画している。

安心・安全を目指す施策として、大山地区に消防団の役場分団を増設する。

②全ての経費について査定を実施しているが、事業仕分けは行っていない。

不用な部分は、事務レベル段階でカットや調整をしている。

③基本的には、行財政改革の流れを尊重し、特に女性の力、パワーを町政に生かしたい。

中山地区に完成した若者向け住宅

遊休資産の今後は

町長　処分や有効活用に努める

問

町有遊休地と施設の有効利用は、以前から議論されてきた。

合併や少子化の影響で、全国には小・中・高校の廃校が約5300校あり、近年では年間400校ずつ増えている。

①全国で、遊休施設や廃校の有効利用が活発に行われている。

新しい農業者の募集や若者経営者の支援をはじめ、老人・子ども・若者が集う場所などの活用事例がある。

遊休施設の活用は、自治体による知恵の競争だと思うが、今後の方針は。

②3年前、町長が議員だった時に、廃校の教室と光ファイバーを利用した、ビジネスの展開を提言していた。

内容は、教室を事務所とする企業の募集や、農産加工品の手作り工房等での利用であった。

本町では、保育所再編が予定されているが、使わなくなる保育所はどのように活用するつもりか。

答　森田町長

①国の経済対策交付金を受けて、旧大山町の庁舎など、遊休施設の処分をした。

今後は状況を見ながら、処分や有効活用に努める。

②現時点での具体策は持ってない。

保育所再編が具体的に進められれば、活用方策や処分の協議をしたい。

利用されていない旧光徳小学校